



2005年3月4日

ロールス・ロイス、住友精密工業とパートナーシップ提携
日本企業と Trent 1000 プログラムの結びつきを強化

【英国 2005 年 3 月 4 日】民間航空、防衛航空、船舶、エネルギー各分野の世界市場において事業展開するロールス・ロイス社（本社：英国ロンドン、CEO：サー・ジョン・ローズ、以下「ロールス・ロイス」）は、ボーイング 787 型ドリームライナー向けに開発されている Trent 1000 エンジンのプログラムに熱管理システムのサプライヤーとして住友精密工業株式会社を選定、同プログラムにおける日本企業との結びつきをさらに強化したと発表しました。

Trent 1000 開発プログラムには、川崎重工業と三菱重工業が既にリスク収益分担パートナー（RRSP）として参画しています。

ロールス・ロイス制御装置担当マネージング・ディレクターのアンドリュー・ヒース（Andrew Heath）は次のように述べました。「住友精密工業とはこれまで様々なエンジンに関して協働してきた実績があります。これからも住友精密工業の技術が最新の Trent プログラムに活かされることを嬉しく思っています。この Trent 1000 の設計と生産業務は、英国と日本の双方を拠点としたチーム体制で行われる予定です。」

住友精密工業が提供することになる熱管理システムは、飛行中の航空燃料と潤滑油を最適な温度に保つもので、これによって安全かつ効率の高いエンジン運航が可能になります。

住友精密工業は、今回のプロジェクトで米カリフォルニア州のパーカー・エアロスペース社（Parker Aerospace）とパートナーを組んでいます。また、同社は現在、ロールス・ロイスの中距離エンジンである BR700 と V2500 プログラム、および高推力の Trent 500、700 ならびに 800 エンジンでもロールス・ロイスのサプライヤーを務めています。

Trent 1000 エンジンは、ボーイング 787 型機向けの最新鋭エンジンです。ローンチカスタマーである全日本空輸（ANA）は、2008 年に就航予定のドリームライナー50 機に搭載されるエンジンとして Trent 1000 を選定しました。ニュージーランド航空もまた 2 機の 787 型機用に Trent 1000 を選定しています。

2006 年に Trent 1000 エンジンの開発テストを開始し、その翌年にエンジンの型式証明を取得する予定です。

Trent 1000 エンジン開発プログラムには、川崎重工業と三菱重工業に加え、米国のグッドリッチ・コーポレーション（Goodrich Corporation）とハミルトン・サンドストランド（Hamilton Sundstrand）が開発パートナーとして参画しています。